

「人工股関節全置換術後の患者満足度および生活の質と歩行予備能との関係」

当院では以下の臨床研究を行なっております。

【研究課題】

人工股関節全置換術後の患者満足度および生活の質と歩行予備能との関係

【研究の背景と目的】

人工股関節全置換術後患者の 7-15%は術後経過に対して不満を持っていると報告されています。術後の満足度と生活の質の低下に関連する因子の 1 つに、歩行能力の低下があります。近年、最大歩行速度と快適歩行速度の差は歩行予備能と定義され、生活範囲や機能との関連が報告されています。日常生活や余暇活動、旅行、スポーツなど高い移動機能の改善が期待される人工股関節全置換術後患者において、歩行予備能は術後の患者満足度や生活の質にも影響を与える可能性があります。しかしながら、人工股関節全置換術後の患者満足度および生活の質と歩行予備能との関係は明らかになっておりません。

本研究の目的は、人工股関節全置換術後の患者満足度および生活の質と歩行予備能との関係を明らかにすることです。

【研究の期間】

2022 年 7 月 1 日～2027 年 7 月 1 日

【研究対象】

変形性股関節症に対して人工股関節全置換術を施行した患者で歩行自立し、当院の外来リハビリテーションに通われている方

【研究の方法】

当院のリハビリテーションでは、術前と術後 1.5 ヶ月、3 ヶ月、6 ヶ月に運動機能の測定を行なっている。本研究では、その測定結果を部分的に 2 次利用し、研究を行ないます。

【利用する情報】

- ・ 基本情報（年齢、性別、身長、体重、BMI）
- ・ 医学的情報（診断名、既往歴、手術記録、治療経過）
- ・ 股関節可動域
- ・ 股関節筋力
- ・ 歩行速度
- ・ 歩行時痛

【予想される利益・不利益】

- 1) 利益：人工股関節全置換術後の患者満足度および生活の質Lが、歩行予備能に影響することが明らかになります。これが明らかになれば、歩行予備能を改善することで、患者満足度および生活の質を改善できる可能性があります。
- 2) 不利益：筋力測定に伴う筋肉痛と歩行速度の測定に伴う転倒が生じる可能性があります。筋力測定では、プレテストを行い徐々に力を入れることでリスクを予防します。また、歩行速度の測定では、理学療法士がつきそうことで転倒を予防します。

【個人情報の取り扱いについて】

本研究の成果を、学術目的のため学会や論文で公表する際には、個人情報を厳重に守り、個人が特定されない形で使用します。

【研究協力の自由について】

研究への協力は自由意志であり、拒否された場合でも不利益はありません。協力を希望されない場合は、お手数をおかけしますが、ご連絡をお願い致します。

【利益相反について】

本研究に開示すべき利益相反はありません。

【研究責任者連絡先】

総合病院土浦協同病院

リハビリテーション部 宮阪隼人

電話 029-830-3711 (代表)